

現地に行く前に

自治労青年部

現地では、生の状況を説明などもないままに目の当たりにします。

事前の確認が必要な事項を整理しました。ぜひ旅の前にご確認ください。



事前学習会動画QR



内容

「原子力」の確認 (20220307 青年常任学習会動画)
自治労方針・政治情勢の確認

視聴後、事前学習会の
視聴後アンケート記入ご協力願います

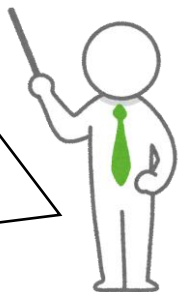


事後アンケート

合わせてこちらもどうぞ (参考)
(長野県本部
せいねんぶちゃんねるより)



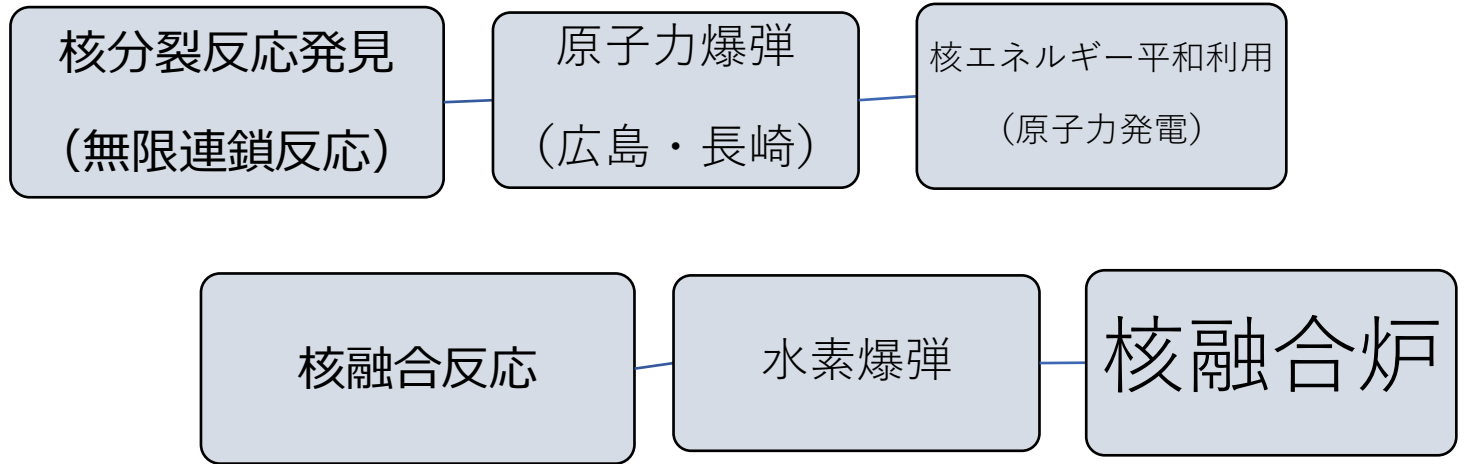
福島に行ってみた (2022. 3)
昨年度撮影の現地の動画です
(動画内リンクがあります (計5本))



事前に学んだうえで、現地を見に行き
みんなと一緒に考えましょう!

福島に行く前に確認しておいた方がいいこと

1. 「原子力発電」にまつわる大きな歴史の流れ



2. 原子力発電にまつわる確認事項

- ①. 原子力発電の基本構造（蒸気による発電と無限連鎖反応の制御）
- ②. 核分裂に伴う生成物（核分裂生成物）の行方
- ③. 無限エネルギー構想 / 高速増殖炉（もんじゅ） / MOX燃料
- ④. 原子力発電の不合理的と日本が手放さない（手放せない）理由の確認

3. 核兵器との関連性（核兵器の平和利用と原子力ビジネスの輸出・監視）

4. 3. 1 1により何が起きたのか？（整理すべき視点・留意点）

①. 廃炉の状況と廃棄物（トリチウム水）の取り扱い

②. トリチウム水の危険性についての確認

③. 実際に働いている人たちの思い（何が起きて、どう思ったか？）

・国策に振り回されている福島で起きていること……正直 カオス

・どのように整理するかはとても難しいということを確認する必要がある。

・そのうえで現地の方に聞きながら整理をするべき実態

○ あの時何が？

○ 3. 1 1 前の状況（原発というものへの思い・故郷への思い）

○ 3. 1 1 後の状況（生活・働き方・業務内容・原発の是非）

④ 社会の問題としての整理

・国策と補助金ありきの自治体運営の問題（国と地方の力関係）

・きちんとした情報がないこと（原子力をまつわる利権構造・「棄民」）

・豊かさは現在、負債は若年層の将来に…… 青年としてどう考える？

・沖縄/広島/長崎/福島/の問題ではなく日本の問題

・核をめぐる議論・情勢をどのように考察すべきか（ウクライナ・核共有論）

8. 政府の「GX (グリーントランスフォーメーション) 実行会議」は、12月22日、「GX実現に向けた基本方針」(以下、基本方針)を取りまとめました。再生可能エネルギーの主力電源化をめざすとする一方で、原発を引き続き安定供給とカーボンニュートラル実現のためのベースロード電源と位置づけ、2030年度電源構成に占める原子力比率20~22%を達成するため、原発を「最大限活用する」としており、従来の「可能な限り原発依存度を低減する」との政府方針を大きく転換しようとするものです。

しかし、上記の目標を達成するためには30基前後の稼働が必要であり、そもそも核燃料サイクルがすでに破綻している中でこうしたエネルギー計画とすること自体が画餅に帰すものであると指摘せざるを得ません。

また、最終処分の実現にむけた国主導での国民理解の促進や自治体等への主体的な働きかけの抜本強化を行うとしていますが、積極的に受け入れる自治体などあるはずもなく住民を不安と混乱に陥れているのが実情であり、原発推進のため、支援と称して交付金などで押し付けるような手法は断じて認められるものではありません。

9. 原発の運転期間については、稼働開始から原則40年、最長でも20年の延長と定められていますが、今回の基本方針では、原子力規制委員会の審査などで稼働していない期間の除外を認めることにより、実質的に60年を超える運転を可能とすることが示されました。しかし、停止期間中であっても設備が老朽化すること、すでに17基が稼働開始から30年を超え、うち4基は40年を超える中であって、トラブルが頻発する危険性が危惧されていることを踏まえれば、さらにルールを形骸化し、安易に運転期間を延長すべきではありません。

他方で、原子力規制委員会は、今回の基本方針のとりまとめに先んじてこれに対応する安全規制の見直し案を了承しており、規制にあたっての「独立性」が揺らいでいるとの指摘もなされています。今後、政府が早期の再稼働を押し進めようとする中であって、政府と歩調をあわせて安全を軽視し早急な審査などを行うことはあってはならず、注視が必要です。

さらに、これまで原発の新規建設を「想定していない」としてきた方針を転換し、次世代型原発の開発・建設に取り組むことが明記されましたが、最終処分場問題などの解決なきまま押し進めることは到底認められません。あわせて、その対象は廃炉が決まった原発とする一方で、他の新設や増設も「検討していく」とされており、対象をさらに拡大することが危惧されます。

10. 岸田首相は、「安全最優先」「安全確保が大前提」と強調していますが、地震などの自然災害が頻発する日本において完璧な安全などないことは、甚大な被害をもたらした福島第一原発事故で明らかです。また、ロシアのウクライナ侵攻によって、原発が安全保障上の脅威となることが再認識されたことを踏まえれば、原発推進へと舵を切るべきではありません。再生可能エネルギーの主力電源化と比率向上にこそ政策資源を集中させるべきです。

エネルギー危機に乗じて、この道しかないような形で原発推進への回帰を拙速かつ強引に進めようとする政府の姿勢には極めて問題があります。

11. 安保、エネルギーなど国、そして国民生活に大きく影響する重要施策を独断的に押し進める一方で、少子化対策を含む全世代型社会保障を「待ったなしの課題」としながら財源確保を先送りにするなど、国民、国会を軽視する政府与党の姿勢は断じて許されるものではありません。

独断的な政権運営に歯止めをかける、緊張感ある政治状況を作り出す、そして国民、働く者に寄り添った政治へと転換していくためにも、4月の統一自治体選挙は極めて重要な選挙となります。

自治労としても、「中道・リベラル」勢力の拡大にむけた端緒とするため、そして、「働くことを軸とする安心社会」の実現、自治労がめざす地方分権・自治確立、地域公共サービスの充実・強化の実現のため、少なくとも、「1自治体1協力議員」の確保にむけ全力で取り組みを進めていく必要があります。

これまでに行った時の特徴的な意見等まとめ

(事故前は) **マジで原発安全神話状態だった**
避難訓練という名の施設見学のみ

(実際に起きたら……) 本当の非常事態には組合での職場協議等ではなく**自分の身を自分で守るしかなかった**。職員が全体避難…寝る場所すらなく、着る物も何もかもない状態でそのまま避難

→ポケットにあった2万円(前日パチンコで勝った)を頭金にして、住まいを自力でアパートを確保した。ほかの人は役所に雑魚寝プライベート空間がなくすごくストレスだった)

【原発の是非についてのある仲間の意見】

被災して、電気の大切さを身に染みた。温かいご飯に涙が出た。電気の為なら原発もしょうがないと思う。

→兒玉質問「仮に福島にもう一度原発っていったら？」

→「**しょうがないと思う。それくらいご飯が強烈**」

※ただ、議論ができない空気というものがあるのも確か。

(その人も個人的には反対だとかっさり言っていた)

身近に原発労働者もいる。今回の被災で東電職員と一丸となって乗り切ろうとしている。単純な敵味方図式にはならない、なれない。

【感想まとめ(2022までのもの総括)】

福島ではあんなことがあったのだから原発反対一色かと簡単に考えていたが全くそんなことがなく、事態が複雑に絡み合っていることを理解した。

(沖縄も同じ図式)

世の中の「お金(資本)」のめぐり方との関連で考える必要がある。振り回される労働者、一丸となれない同士の分断(連帯不可)等非常に根深い問題であるといえる。

福島の問題ではなくこの国の問題として、青年としてどう考えるのかは課題である。(まずは知る、体験することから)